

令和4年度全国高校生体験活動顕彰制度事業

「地域探究プログラム オリエンテーション合宿 in 赤城」

1. 趣旨

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、探究のプロセスを体験し、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを身に付ける。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和4年12月26日(月)～27日(火)

(2) 参加者

群馬県立沼田女子高等学校2年生生徒17名(女子17名)

3. 企画運営のポイント

- (1) 活動の目的や達成目標を明確にし探究の学びのプロセスを用いて、指導計画とワークシートを作成する。
- (2) フィールドワーク先を多機能型事業所「SONATARUE」に設定し、医療法人大誠会グループの協力を得ることで、充実した体験活動ができるようにする。
- (3) オリエンテーション合宿の課題を「SONATARUE 活性化プランをつくる」に設定し、沼田女子高校の「総合的な探究の時間」の教育課程と関連させ、本合宿の成果を学校で生かすことができるようにする。

4. 日程

	午前	午後	夜
12月26日 (月)	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」 講師：田辺 祐己氏 (医療法人大誠会) 真下 潔氏 小林 若葉氏 角田 指導員 (SONATARUE)	講義・演習① 「地域理解」	講義・演習② 「課題解決の基礎」
12月27日 (火)	フィールドワーク② 「地域課題の探究」 講師：田辺 祐己氏 (医療法人大誠会) 講義・演習③ 「地域課題の探究」	講義・演習③ 「地域課題の探究」 発表 ふりかえり	

5. 主な活動内容



フィールドワーク①「地域の魅力を発見」



講義・演習①「地域理解」



講義・演習②「課題解決の基礎」



フィールドワーク②「地域課題の探究」



講義・演習③「地域課題の探究」



発表

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足12名(70.6%) やや満足5名(29.4%) やや不満0名 不満0名

(2) 参加者の声

- ・自分自身を成長させることができ、学校では学べないことを学べ充実した2日間だった。
- ・グループのみんなで考えることで一人では気づけない発見ができて楽しかった。
- ・みんなで協力して発表の準備や発表をすることで、人前の発表が苦手な私でも自信をもって良い発表ができた。
- ・他の班の発表を聞いて、こんな視点があるのかと驚かされたので、視野を広く物事を見れる力をつけたいと思った。
- ・体験活動がコロナの影響で少ない中、参加して課題発見・解決能力を伸ばすことができた。
- ・探究活動の仕方を深く知ることができた。他人事と思わず、自分のことと理解し自分から行動していきたくと思った。考えるだけでなく実行までたどりつけるかがカギだと思った。
- ・こんなにも1つのことに集中して過ごした2日間はこれまでにないので、すごく貴重な体験をすることができた。障がいの方と関わっていくことが「貴重」ではなく「普通」のことになれば良いなと思った。将来の夢に向けて日々努力していきたい。

(3) 成果

- ①参加者から「ステップごとに組み立てられていてわかりやすかった」「短い時間の中で課題をみつけて、解決方法を探してというのが厳しいかなと思っていたけど、班で協力してアイデアを出し合うことで、少し凝ったものができてよかった」「探究活動の仕方を深く知ることができた」などの意見があることから、各探究のプロセスごとに活動の目的を明確にし、ワークシートを作成したことは、情報の整理や分析、アイデア出しや発表方法を考えるための手段として有効であった。
- ②参加者から「1泊2日の中で、コロナ禍にできなかったことをたくさん体験でき、地域について考える良いきっかけとなった」「地域について考えられてよかった」などの意見があることから、地域についての理解を深める上でフィールドワークは有効であり、自分の地域に目を向けるきっかけとなった。多機能型事業所でフィールドワークを行ったことで、学校の教育課程とも関連付けることができた。

(4) 課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響もあり日程調整と参加者集めが難航した。引き続き連携校と協議しながら日程調整をし、積極的に学校にも足を運ぶとともに今年度の参加者も巻き込みながら広報を行っていきたい。